

防災資機材・備蓄品の参考例

『自主防災組織活動マニュアル（H28. 4香川県）』より抜粋

3 防災資機材の点検・整備

自主防災組織に必要とされる防災資機材は概ね下表に示すものとなっています。これはあくまでも目安ですので、地域の実情（津波や山・がけ崩れの危険予想地域か、延焼火災の危険予想地域か、世帯数はどれくらいか等）に応じて何がどれくらい必要なかを検討してください。

次に、自分の地域に何があるのかを確認し、不足しているもの、新たに必要とされるものがあれば整備するようにしましょう。市町によっては、防災資機材の購入に際し補助制度を設けているところもありますので市町防災担当課に相談してください。

なお、いくら防災資機材が揃っていても、いざというときに使えないのでは意味がありません。日ごろから、作動するための電源（バッテリー）や燃料、補完道具などの保管状況の点検と取り扱い方法の習熟に努めるようにしてください。特に、ガソリンエンジン類は月1回の試運転が必要です。

備品台帳を整備して、定期的に点検するとともに、備品リスト(写真付き)を整備して、常に使用できる状態にしておきましょう。

自主防災組織 防災資機材の参考例

区分	品名
情報収集・伝達用	携帯用無線機、受令機、電池メガホン、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ帳、油性マジック(安否・被害状況等、情報収集・提供の際に用いる筆記用具として) 等
初期消火用	可搬式動力ポンプ、可搬式散水装置、簡易防火水槽、ホース、スタンドパイプ、格納器具一式、街頭用消火器、防火衣、鳶口、ヘルメット、水バケツ、防火井戸 等
救出用	バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ペンチ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、エンジンカッター、チェーンブロック、油圧式救助器具、可搬式ウィンチ、防煙・防塵マスク 等
救護用	担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベッド 等
避難所・避難用	リヤカー、発電機、警報器具、携帯用投光器、標識板、標旗、強力ライト、簡易トイレ、寝袋、組立式シャワー、簡易間仕切り(段ボールパーティション) 等
給食・給水用	炊飯装置、鍋、こんろ、ガスボンベ、給水タンク、保温食缶、緊急用ろ水装置、飲料用水槽 等
訓練・防災教育用	模擬消火訓練装置、放送機器、119番訓練用装置、組み立て式水槽、煙霧機、視聴覚機器(ビデオ・映写機等)、火災実験装置、訓練用消火器、心肺蘇生用訓練人形、住宅用訓練火災警報器 等
その他	土のう袋、簡易資機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器 等

4 備蓄の管理・整備

災害時用の備蓄は各家庭において行われるべきものですが、大規模地震の発生時には、家屋の倒壊等により、家庭での備蓄品の取り出しができない場合もあります。

また、南海トラフ地震など大規模な災害時には、数日間以上にわたり、電力・水道等のライフラインが途絶することが予測されています。

そのような場合に備え、各自主防災組織でも、水、食料等を一定量備蓄しましょう。

災害時には、避難所に、行政から水、食料等の供給が行われる予定ですが、道路等の事情により、物資が届くのに長時間要した事例もあります。

地域の世帯状況や住宅の耐震化状況等を把握し、必要量を検討しましょう。

備蓄品の消費期限を確認し、期限が過ぎる前に更新してください。



自主防災組織 備蓄品の参考例

区分	品名
飲食料等	保存水 500 ml、保存水 1ℓ、保存水 2ℓ、米、アルファ米、クラッカー、レトルト食品、缶詰等
乳児用	粉ミルク、ほ乳瓶等